

高梁川 流域 キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集



かつやく とし
活躍した年:

1895~1988年



かつやく ぶんや
活躍した分野:

にほんがが
日本画家



ゆかりのある場所など:

くらしきりつびじゅつかん
・倉敷市立美術館

けんしゅうきねんしつ
・顕彰記念室

いけだようそん さかたかずお
(池田遥邨・坂田一男)

おのちっさよう
・小野竹喬



いけだ ようそん
池田 遥邨

新 高 総 早
見 梁 社 島
市 市 市 町
倉敷市

矢 井 浅 里 笠
掛 原 口 庄 岡
町 市 市 町 市



いけだようそん めいじ ねん おかやましかどたやしき りょうしん とうじ うち う
池田遥邨は、明治28(1895)年、岡山市門田屋敷(両親の当時のお家)の生まれと
されています。子どものころから画家になりたくて、尋常高等中学校(現在の高校)の入試
う え えが す
を受けなかったほど絵を描くことが好きでした。

めいじ ねん さい おおさか で ようがか まつばらさんごろう てんさいがじゅく まな
明治43(1910)年に15才で大阪に出て、洋画家・松原三五郎の天彩画塾で学び、
たいしやう ねん だい かいもんぶしょうびじゅつてんらんかい ぶんてん しゅつてん くも び
大正3(1914)年の第8回文部省美術展覧会(文展)に出展した「みなとの曇り日」が
はつにゅうせん いっぽう かさおかしゅっしん にほんがが おのちっさよう であ え なか しゅかん い
初入選しました。一方で、笠岡出身の日本画家・小野竹喬と出会い、「絵の中に主観を入れて

じょげん にほんが てんしん たいしやう ねん たけうちせいほう がじゅく ちく
みては」と助言され、日本画に転身しました。大正8(1919)年に竹内栖鳳の画塾「竹
じょうかい ねっしん けんぎゅう だい かいていこくびじゅつてんらんかい ていてん なんどう はちがつ にゅう
杖会」で熱心に研究するとともに、第1回帝国美術院展覧会(帝展)で「南郷の八月」が入
せん にほん かいが せかい かんとうだいしんさい いたいた
選して日本の絵画の世界にデビューしました。しかし、関東大震災の痛々しいありさまをス

さいか あと がだん みと だい かいていてん らくせん
ケッチした「災禍の跡」は画壇から認められず、第5回帝展で落選となりました。

しょうわ はい やまとえ なんが もしや はげ さくふう いっぺん やまとえ しんかいしやく
昭和に入ると大和絵や南画などの模写に励んで作風を一変させました。大和絵の新解釈に
せいしん さくふう ようそん ふたた がだん みと えど うきよえし うたがわひろしげ
たった清新な作風によって、遥邨は再び画壇に認められました。江戸の浮世絵師・歌川広重
とうかいどう ある しょうわとうかいどうごじゅうさんつぎ せいさく にほんじゅう たび
にならって東海道を歩いて「昭和東海道五十三次」を制作するなど、日本中を旅しました。

せんご そうしよくせい と どくじ ひょうげん とうたつ ふうけいが どくじ がふう き
さらに戦後は装飾性やユーモアに富んだ独自の表現に到達し、風景画に独自の画風を切り
ひら げんそう みょうじんしょう もり うた ころ さくひん ふうけい きつね たぬき どうぶつ
開きました。「幻想の明神礁」や「森の唄」はこの頃の作品です。風景に狐や狸などの動物を
か え ようそんげいじゅつ い
描きこんだ絵は遥邨芸術のトレードマークとも言えます。

そうさくいよく ばんねん おとろ さい はいじん たねださんとうか く せかい えが さん
創作意欲は晩年になっても衰えず、89歳から、俳人・種田山頭火の句の世界を描いた「山
とうか とりく ようそん だいひょうてきれんさく
頭火シリーズ」に取組み、遥邨の代表的連作となっています。